

ラモトリギン錠「トーフ」を服用される患者さんにご家族の方へ

重篤な皮膚障害について

- この薬の服用中に、重篤な皮膚障害（広範囲にわたり赤くなり、やけどのような水ぶくれ、皮膚のはがれ、ただれなどが全身に広がる）があらわれることがあります。副作用が疑われた場合には早期に適切な治療を受けてください。

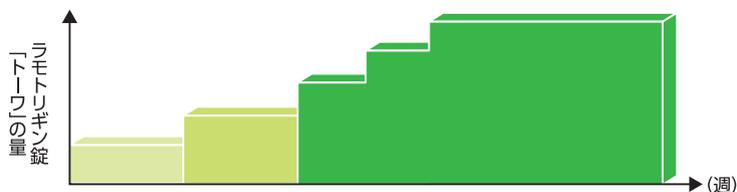
・ 下記のような症状があらわれた場合には、すぐに医師・薬剤師に相談してください。



- ・ 医師や薬剤師に相談する際は、この薬を服用していることを伝えてください。
- ・ 医師からこの薬の服用を中止するよう指示された場合は、すぐに中止してください。

- 薬は必ず医師・薬剤師の指示通りに服用してください。
- 自己判断で薬の服用を再開しないでください。
- 医師から皮膚科への受診を指示された場合は、皮膚科へ直ちに受診してください。
- この薬は、患者さんの体質や病気の症状、飲んでいる薬によって、効果や副作用の出かたが違ってきます。そのため、患者さんの安全性を考えて、ごく少量から始め、効果の出かたと副作用のかね合いをみながら、適切な量を慎重に決めていきます。最終的な量が決まるまでの期間は、数週間から数ヵ月ほどです。短時間で量を増やすと、重篤な発疹が出やすいことがわかっています。あわてず、じっくりと薬とつき合ってください。

ラモトリギン錠「トーフ」を飲み始める時のイメージ図



少ない量から飲み始めます。(2週間)

少量を増やします。(2週間)

さらに少しずつ量を増やしていきます。(1~2週間) 患者さんごとに最適な量を決め、その量を維持します。

裏面も必ずお読みください。

- 他の薬（市販の薬も含む）と一緒に飲む場合は、あらかじめ医師または薬剤師に相談してください。また、何か別の病気で他の病院にかかる場合は、この薬を飲んでいることを担当の医師に伝えるか、この薬を持って行って医師に見せてください。
また、特に経口避妊薬とはお互いに影響を与え合うため、経口避妊薬を飲んでいる方は、薬の量を調節する必要があります。必ず医師に申し出てください。
- 皮膚障害があらわれる率が高くなったり、発疹が悪化する危険性が高くなるのは、次のような場合です。

- 急に薬の量を増やしたり、適切な量以上に飲んだ場合
- 13歳以下の小児の方
- パルプロ酸ナトリウム（デパケン、デパケンR、セレンカRなど）という薬を飲んでいる場合
- 薬疹の既往のある方
- 薬を飲み始めて8週以内

重大な副作用について

- 重篤な皮膚障害の他に、次のような副作用があらわれることがあります。このような場合には、直ちに医師または薬剤師に相談してください。

- さいせいふりょうせいひんけつ ほんけつぎゅう
再生不良性貧血、汎血球減少（めまい、鼻血、歯ぐきの出血など）
- む かりゅうきゅうしゅう
無顆粒球症（発熱、のどの痛みなど）
- かんえん かんきのう おうだん
肝炎、肝機能障害、黄疸（からだがだるい、吐き気、嘔吐、白目が黄色くなるなど）
- むきんせいぜいまくえん こうぶ とうちよく おしん こんだく
無菌性髄膜炎（項部硬直、発熱、頭痛、悪心・嘔吐または意識混濁など）
- けつきゅうどうんしよくしゅうこうぐん
血球貪食症候群（発熱、発疹、リンパ節のはれ、出血がとまりにくいなど）

この他にも、この薬を飲んでいる間に何らかの体調の変化に気づいたときには、医師または薬剤師に相談してください。

薬の飲み方

- この薬は、水とともにそのまま飲む、あるいは錠剤をかんで飲む、または少量の水に溶かして飲むなど、さまざまな方法で飲むことができます。